

安全最優先

1 基本方針

基本方針

デンカグループでは、全役職員等*の一人ひとりが、職場の安全衛生と設備の保安防災がすべての生産に係る活動において最優先であることを理解し、実践する。

*全役職員等：デンカグループの全役員・従業員・派遣社員・業務受託者およびその従業員

今般、「デンカグループ労働安全衛生ポリシー」を制定し、全社の基本方針を見直しました。また、デンカグループの全役職員等が、労働安全衛生を確保するため遵守すべき行動指針も定め、サステナビリティサイトで公表しております。

2 2026年度の安全衛生管理計画

安全衛生管理計画

1. 労働災害度数率0.2以下

- 1) ノンテクニカルスキルの向上・継続的な学びによる行動災害(不注意・ルール違反)の防止
- 2) 職場環境改善のための体系的な事業所内巡視(パトロール・声掛け)およびコーポレート監査

2. 重大事故ゼロ

- 1) 高エネルギーハザードに絞った事故の再発・未然防止対策の実行
- 2) 安全基盤の点検と再構築による全社的な保安力向上

3. あるべき姿に向けた取り組み

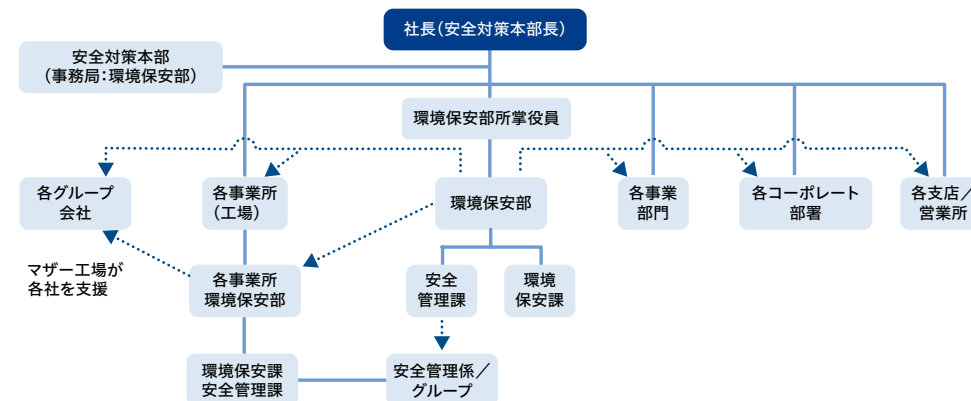
- 1) 課題の抽出とルールや仕組みの整備と運用
- 2) デジタル／DX化による安全・保安管理の効率化・精度向上

3 安全管理のマネジメント体制とPDCA

①安全管理のマネジメント体制

社長を本部長とする安全対策本部を設置し、事務局である環境保安部に安全管理の専門要員を配置して、グループ全体の安全管理状況を監査・確認・支援する体制としています。

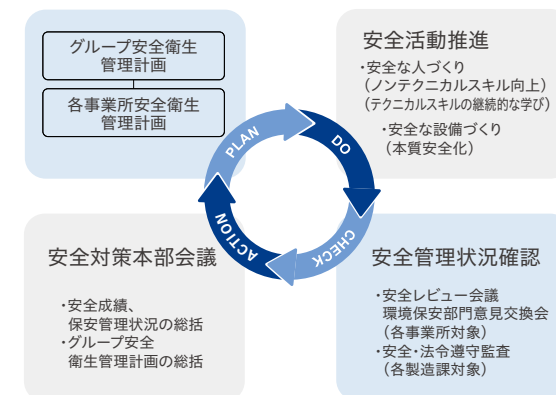
また、国内外グループ会社に対してきめ細かな支援を行うためマザー工場制度を設け、マザー工場の環境保安部が各社を往訪し、安全管理上の課題解決に当たっています。



②安全管理のPDCA

グループ全体の年度安全衛生管理計画に基づき、各事業所でこれに沿った年間計画を作成、各種安全活動を推進しています。

安全レビュー会議や環境保安部門意見交換会で活動状況を確認し、その結果を安全対策本部会議でレビューし、課題を明確にし、次年度の安全衛生管理計画に反映することで、安全管理をスパイラルアップさせる仕組みとしています。

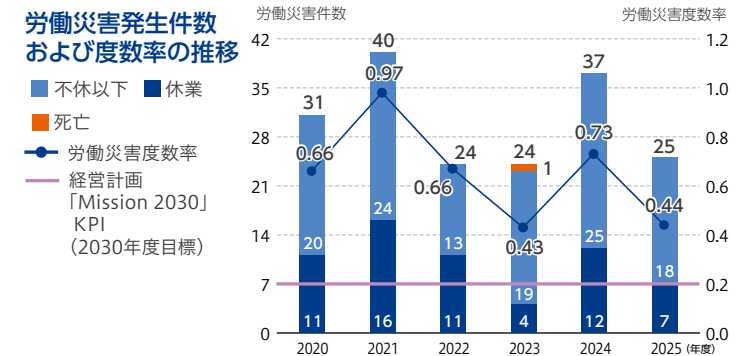


安全最優先

4 労働災害件数および度数率

2025年度の労働災害発生件数は25件と、2024年度より12件減少しました。うち休業災害は7件で、KPIの労働災害度数率は0.44に改善しました。災害の型別分類では、挟まれ・巻き込まれ重点活動の結果、「挟まれ・巻き込まれ」が7件→4件に減少したとともに、「転倒・激突され」が6件→2件と減っており、これら災害件数の減少に寄与しています。引き続き「安全な人づくり(ソフト):ノンテクニカルスキルの向上」と「安全な設備づくり(ハード):設備の本質安全化」を進めることで、労働災害の削減に努めて参ります。

労働災害発生件数
および度数率の推移



5 安全最優先の取り組み

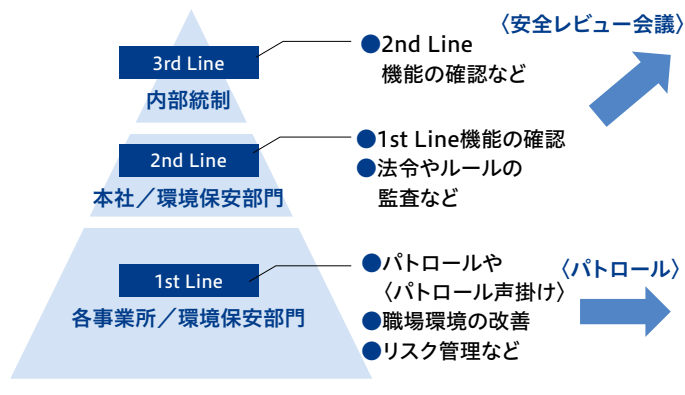
① ノンテクニカルスキル向上の取り組み

災害・事故異常の未然防止に向け、一昨年より全社でインストラクターの養成を進めています。本活動では、現場での気づきや判断、声掛け、異常時の「伝える・止める」といった行動が実践できる組織づくりを目指します。そのため2026年度は、小集団の活動事例の展開などを通し、教育から実践へ移行するとともに、コラム投稿などの情報発信を全社ポータルサイトで強化していきます。

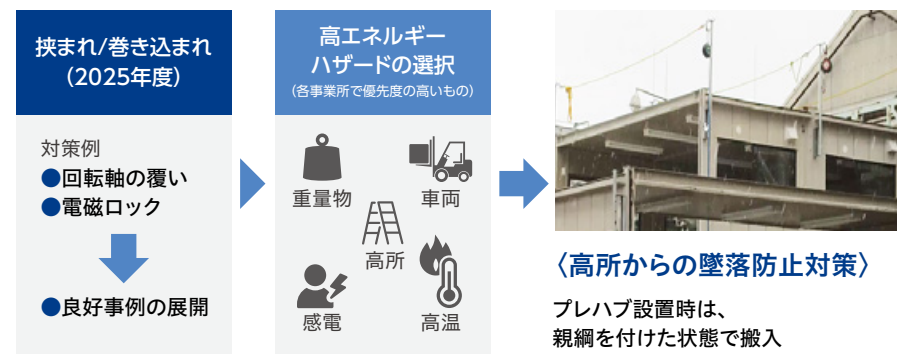


② 体系的な巡視とコーポレート監査

3Lineの仕組みを活用し、巡視・監査を通じて職場環境の改善に努めています。



③ 高エネルギーハザードに特化した総点検と対策



④ 安全管理DXへの取り組み

当社は、現場の安全管理体制強化と業務効率化を目的に、AI搭載型安全管理ソリューション「SpectA KY-Tool」を導入いたしました。

本ツールは、労災データや自社事例を基に、現場写真や作業内容から潜在リスクをAIで自動抽出することで、経験に依存していた危険予知活動をデジタル化・高度化します。

これにより、リスク感度を高めて災害の未然防止を図るとともに、各種書類作成などの事務負担を軽減し、監督者が安全パトロールや指導といった本来業務に専念できる環境を整えます。

これらを通じて、安全で持続可能な現場づくりを推進し、お取引先さまや社会からより一層信頼される企業を目指します。